

---

プロジェクト      **ASAF 対応**

項目                      **ASAF レビュー 質問票に対する回答を踏まえた今後の対応**

---

### 本資料の目的

1. 本資料は、2015年3月に開催予定のASAF会議向けにIASBスタッフにより作成されたASAFレビューの質問票に対する回答等をまとめたペーパー（以下「本ペーパー」という。）について、概要をまとめたものである。本日の企業会計基準委員会では、本ペーパーについて概要の説明を行うとともに、ASAF会議における発言案について、ご意見を頂くことを予定している。

### 本ペーパーの目的

2. 本ペーパーの目的は、次のとおりである。
  - (1) ASAFレビューに対するフィードバックの要約をASAFメンバーに提供すること
  - (2) 受領したフィードバックについてASAFメンバーの見解を求めること
  - (3) ASAFレビューの今後の予定について、概要を明らかにすること

### 背景

3. ASAFレビューの範囲、内容及び時期については、2014年10月のIFRS財団評議員会の会議で合意された。IFRS財団評議会は、次の事項について合意した。
  - (1) レビューの範囲は、IASB及びASAFメンバーが締結した取決め条項（Terms of reference）及び覚書（MOU）と比較し、ASAFがどのように機能したかを評価することである。
  - (2) IASBは、以下を通じて、初期の見解を収集する。
    - ① ASAFメンバー、IASBメンバー、及びIASBスタッフに対する詳細な質問票
    - ② 他の各国基準設定主体及び地域グループに対してより簡単な質問票
    - ③ IFRS諮問会議との議論
  - (3) 面談を通じて、発見事項をフォローアップする。
  - (4) レビューの完了に伴いフィードバック・ステートメントを公表する。
  - (5) レビューの発見事項を検討するために、公式のASAFメンバー候補者の募集の前に現在のASAFメンバーの任期を延長する。

4. 初期の見解の収集は完了したため、以下において、受け取ったフィードバックのハイレベルな要約を提供する。

### ASAF メンバーへの質問票からの主な発見事項

5. 全般的に、ASAFメンバーは、ASAFの運営に肯定的であった。数名のメンバーは、ASAFは効率的であり、ASAFの継続を支援することを表明していた。
6. 質問票では、主に次の評定によって、各項目を評価することをASAFメンバーに求めていた。

評定:1=強く同意;2=同意;3=ある程度同意するが、改善の必要あり;4=強く反対

7. 質問票は、6つの項目に分かれており、各項目の平均評定は、次のとおりであった。

項目	平均評定 <sup>1</sup>
ASAF活動の目的及び範囲	同意
メンバー構成	強く同意
会議	同意
コミュニケーションとリエゾン活動	同意
IASBとの交流	同意
ASAFの全体的な評価	同意

8. IASBスタッフは、ASAFメンバーから入手した回答を踏まえ、さらなる検討が必要な領域として、次の3つを識別した。

(1) ASAF会議の資料

(2) ASAF会議の議題

(3) ASAF会議で示された意見へのIASBの対応に関するフィードバック

### ASAF 会議の資料

9. ASAFアジェンダ資料の配布のタイミングは改善されつつあるものの、ASAFメンバーが、関係者から意見を聞く時間を確保するため、会議資料は会議の4週間前には送付される必要があるとコメントしていた。

<sup>1</sup> 2つのASAFメンバーは、質問票を完了することを選択せず、コメントを記載して提出した。

10. 会議の4週間前に資料が送付される必要があることに加えて、ASAFメンバーは、アジェンダ資料の質の改善についても提案をしていた。提案の中には、アジェンダ項目は、要約されたうえで、ASAF会議で議論される主要なポイント及び質問に焦点を当てて記載されるべきであるとの提案があった。
11. IASBスタッフは、ASAFメンバーの指摘を認識しており、会議資料の質の改善に継続して取り組み、アジェンダ資料の配布時期の見込みを明らかにする予定である。

### ASAF 会議の議題

12. 数名のASAFメンバーから、ASAF会議の議題の設定プロセスは改善されているものの、議題がまだ期待に沿ったものではないという指摘があった。この提案は、ASAFメンバーの懸念は議題設定プロセスではなく、会議での内容に関するものである。しかし、ASAFの議題に含めるべき実際の議題に関して、ASAFメンバーには多様な見解があった。
13. 現在、IASBスタッフは、各ASAF会議の最後に、議題案を提案し、ASAFメンバーから見解を求めている。会議で受け取ったコメントを受けて、さらなるコメントを求めて、改訂された議題案が配布される。追加のコメントを受け取ったあとに、議題が最終化される。

### ASAF 会議で示された意見への IASB の対応に関するフィードバック

14. IASBは、フィードバックのあり方及びASAF会議で受け取ったアドバイスをIASBがどのように利用するかに関する懸念を、改善すべき領域として認識している。デュー・プロセス監督委員会 (Due Process Oversight Committee) は、2015年2月の会議において、IASBの諮問機関 (consultative bodies) に提供されるフィードバックのあり方を改善する提案について議論した。将来、ASAF会議で示された意見及び当該意見がどのように対応されたかに関する要約を受けるようにすることを予定している。

### その他の問題

15. ASAFメンバーから指摘されたその他の項目には、ASAFがIASBのデュー・プロセスにおいてより正式な (formal) 役割を有するべきかどうか、及びASAFをIASBのデュー・プロセス・ハンドブックに組み込むかどうかが含まれていた。

### 各国基準設定主体への質問票からの主な発見事項

16. ASAFメンバー以外からも、各国基準設定主体から20の回答があり、それ以外に17の回答があった。IASBスタッフは、それぞれ別個に分析を行った。

## 各国基準設定主体

17. 各国基準設定主体からの回答では、質問票に対する平均評定は、次のとおりであった。

項目	平均評定
コミュニケーションとリエゾン活動	同意
ASAF活動の目的及び範囲	同意
メンバー構成	同意
ASAFの全体的な評価	同意

18. コミュニケーションとリエゾン活動に関する質問票において、多くの各国基準設定主体は、次の事項に関して懸念していた。

- (1) ASAF会議の前に、ASAF会議代表者が、見解を集め準備するのに十分な時間が確保されているか
- (2) ASAFの議題に関する論点について、ASAFメンバーが、各国の基準設定主体及びその他の地域における組織と協議を行う適切性な時間を確保することが可能か

19. これらのコメントは、ASAFメンバーからのコメントと一致していた。

20. ASAFのメンバー構成については、ASAFメンバーが、現在のメンバー構成の取決めを強く支持する一方、ASAFメンバーではない各国基準設定主体は、ASAFの規模の拡大を支持していた。

## その他の反応

21. IASBは、各国基準設定主体以外からの回答を求めていなかったが、17の回答（監査法人、学術研究者、及び作成者等）を受け取った。

22. ASAFのメンバー構成に関して、このグループから回答（例えば、ASAFは、メンバー構成の一部として規制当局を含むべきかどうか、地域的な代表者のバランスを図るべきかどうかを含む。）がなされた。

23. ASAF会議における議題の重要性、IASBがASAF会議から得たフィードバックをどのように活用すべきかについては、ASAFメンバー及び各国基準設定主体の懸念と同様のコメントがなされた。

### IASB メンバーへの質問票からの主な発見事項

24. IASBメンバーからの回答では、ASAF会議における議論の深さについて懸念が示された。IASBメンバーは、ASAF会議での議論が表面的なものに留まる傾向にあり、このため、いくつかの主要な論点やASAFメンバーの懸念について十分な議論がなされていないことを強調している。IASBメンバーは、ASAFとIASBは協力的に作業を進めるべきであり、IASBが考えを構築し、提案を明確にするためには、ASAFメンバーのそれぞれの見解を理解することが重要である。

### IASB 諮問会議との議論からのフィードバック

25. 2015年2月のIFRS諮問会議において、IASBスタッフは、ASAFメンバー及び各国の基準設定主体への質問票の反応からの発見事項の概要について説明し、次の3つの質問について諮問会議のアドバイスを求めた<sup>2</sup>。
- (1) ASAFにおける諮問会議は、IASBにとって強制的なデュー・プロセスの1つとすべきか
  - (2) ASAF活動の範囲は、リサーチ活動も含めて、IASBのアジェンダの優先順位まで含めるように拡大すべきか
  - (3) ASAFの規模を変更すべきか、変更すべきである場合、ASAFの議席 (seats) はどのように設定すべきか
26. 全体的に、IFRS諮問会議は、ASAFによる協議をIASBのデュー・プロセスとして強制することには支持していなかった。これは、IASBが基準設定に関する説明責任 (accountability) を維持することを確保し、ASAFによる強制的な協議が、ASAFメンバーと非ASAFメンバーという2つの法域の階層 (tiers) を生み出す可能性があるためである。
27. IFRS諮問会議は、全体として、ASAFの役割を維持する方が良いと考えており、このため、ASAFがアジェンダの優先順位を協議しない方が良いと考えている。しかし、リサーチ・アジェンダについての協議は支持していた。
28. ASAFの規模に関して、IFRS諮問会議は規模を大きくすることは支持しないが、メンバーのローテーションは支持していた。また、IFRS諮問会議は、ASAFメンバーを規制当局まで拡大することは支持しない。

---

<sup>2</sup> IASB 諮問会議の資料は、IASB のウェブサイトを利用可能であり、以下を参照のこと。  
<http://www.ifrs.org/Meetings/MeetingDocs/Advisory%20Council/2015/February/2015-02-AP3-ASAF-Review.pdf>

### ASAF メンバーへの質問

29. IASBスタッフは、次の事項に関するASAFメンバーのフィードバックを求めている。

- (1) ASAFメンバーは、ASAFメンバーへの質問票に関する要約（第5項から第15項）が、主要な懸念を反映していると考えるか
- (2) ASAFメンバーは、各ASAF会議で議論する項目の選択をどのように改善するかについて提案はあるか
- (3) ASAFメンバーは、発見事項に関して追加のコメントはあるか

### 今後の予定

30. 今後の予定の概要は、次のとおりである。

日時	イベント
2015年2月	ASAFメンバーとのフォローアップ面談
2015年3月	ASAF会議で発見事項を議論し、今後の予定を合意
2015年4月	評議委員会の会議： (a) 面談からの発見事項の草案の報告 (b) 今後の予定の合意 (c) 候補者の募集 (Call for nominations)
2015年6月	評議委員会の会議： (a) 面談からの発見事項の最終報告 (b) レビューの完了に伴いフィードバック・ステートメントの公表 (c) ASAFメンバーの選任/再任
2015年7月	ASAF会議

### ASAF 会議での発言案

31. ASAF会議において、主に次の発言をすることを予定している。

- (1) 我々は、ASAFレビューの質問票に回答するにあたって、広範な関係者と協議を行った。我々は、ASAFは全体として非常に良く機能していると考えているが、関係者との協議を踏まえ、次の事項について改善するように提案を行っ

ている。

- ① ASAF会議を、IASB会議の直前、特に重要な事項について暫定決定を行う前に開催するようにすること。会議の開催時期は、ASAF会議がIASBに対して適時に助言を行うことができるようにするうえで、おそらく、最も重要な点と考えられる。
  - ② ASAF会議において、IASBのアジェンダの優先順位について年次に検討を行うこと。アジェンダ協議は、世界における関係者から広く重要な論点を聴取するうえで重要であるが、3年に一回という制約があり、適時性に欠けるという指摘もある。このため、ASAF会議において、IASBのアジェンダの優先順位について助言を行うことがIASBで取り扱う議題を有用性のあるものとするうえで、有効なメカニズムとして機能すると考えられる。
  - ③ より多くのIASB理事の参画を促すこと。ASAF会議には、IASB議長・副議長のほか、ボードアドバイザーや担当スタッフも出席しており、この点について高く評価できる。しかし、より多くのIASB理事が参画し、ASAFメンバーとの対話ができれば、ASAF会議の有効性は一層高まるものと考えられる。
- (2) ASAF会議は、関係者からの期待が非常に高く、日本国内でも、多くのメディアで取り上げられている。このため、我々としても、ASAFが更に有効に機能するよう、質の高いアジェンダ・ペーパーの提出ができるようにすることも含め、積極的な貢献を続けていきたい。

#### ディスカッション・ポイント

上記の ASAF 会議における発言案について、ご意見を頂きたい。

以上